大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

大阪あそ歩 OSAKA ASOBO®

摂津・河内国境の街道をゆく

～水路の歴史を織り交ぜながら～

摂津国と河内国の国境となっていた街道を下りながら、寝屋川や、今では道路となってしまった井路川の歴史を辿りつつ、放出（はなてん）地名由来の伝承が残る、式内社・阿遅速雄（あぢはやお）神社までを歩きます。

① つるぎかいどう碑

剣畷（つるぎなわて）と称される古代からの堤は、剣街道または放出道と呼ばれ、北は千林付近から放出を通り、南は深江まで南北に伸びています。かつては摂津と河内の国境であり、現在は大阪市と守口市・東大阪市を隔てる市境の道です。剣街道という名称は、阿遅速雄神社（別名：八剣神社）の参詣道であったからという説があります。また、「つるぎ」は「つるみ（鶴見）」地名に転じたとも言われています。

② 鶴見

平安末期に、近江国・下阪本村比叡辻の農民17人がこの付近を開拓し、郷里の村名から辻村と名付けました。現在の旭区にあった上辻村に対して下の辻村と呼び、下辻村が正式名称となりました。大正14年（1925）に大阪府東成郡・榎本村が大阪市に編入された際、下辻は鶴見に名称変更されました。地名「鶴見」には次の伝承があります。源頼朝が富士の巻狩りを行った時、千羽の鶴に金の短冊を付けて放しました。この鶴が村の東の葭島に飛んできて住み着き、毎日、西へ飛んで行きました。短冊がきらきら光って美しく、たくさんの人が見物にやってきたので、地名が「鶴見」になったというものです。

③ 鶴見神社

日吉大社並びに比叡山峯八王子社の分霊を勧請し、比叡山峯八王子社と称していたのを昭和25年に鶴見神社と改称しました。かつて、神社の南側には三郷井路川が流れていました。三郷井路川は、三郷橋より上流を言い、下流は鯰江川と呼ばれていました。井路には田舟が行き来し、鶴見神社の少し東が田舟の折り返し地点で「広海」と呼ばれていました。

④ 椿本チエインまで飛んだ石

今から200年程前に大峰講の有志によって持ち帰られた石と伝えられています。米軍による大阪空襲時、風圧で椿本チエイン（このコースの出発地点、現イオンモール鶴見リーファ付近）があった場所まで吹き飛ばされたことから、地元では椿本チエインまで飛んだ石と言われます。高さ4メートルの大石は、付近の住民が担いで現在地まで戻しました。

⑤ 三保ヶ関部屋

大坂相撲で活躍した初代・三保ヶ関梶右衛門から続く三保ヶ関は、現在にも続く年寄名跡です。部屋からは第五十五代横綱・北の湖、大関・増位山（現・三保ヶ関親方）や北天佑など錚々たる名力士が誕生しました。大相撲三月場所が行われる頃、部屋所属の力士たちを見られるかも知れません。

⑥ 寝屋川改修碑

寝屋川は交野市星田を水源とし、河内から大阪市内までを東西に結ぶ重要な水路です。かつては農作物や肥料を運搬した剣先舟や、野崎参りの屋形舟が利用しました。洪水時には、濁水が氾濫して住民に危険が及び、また、舟の利用も大きく制限を受けました。そのような状況を改めるべく、東成郡榎本村の村長を務め、大阪府会議員になった「放出の太閤さん」・大橋房太郎が立ち上がりました。大橋は、大正3年（1914）より寝屋川改修を大阪府に訴え、度重なる陳情を続けます。その結果、大阪府は大正11年（1922）より寝屋川の改修工事に着手し、昭和2年（1927）に新喜多橋～徳庵区間が竣工しました。

⑦ 六郷修堤碑

正因寺（1515年創建）に大橋房太郎が眠っています。墓前には大橋房太郎が淀川、寝屋川改修とともに尽力した六郷井路（六郷川）修堤の碑が建っています。六郷井路は大和川付け替え後、宝永年間（1704～1711）に徳庵川（寝屋川の前身）の南に並行して掘られたものです。六郷堤は低く薄いために度々決壊しました。水害に悩まされていた住民を救済するため、明治20年（1887）に大橋房太郎は大阪府に請願決議書を提出しました。その後も請願を重ねた結果、明治25年（1892）から明治29年（1896）にかけて堤の改修工事が行われ、住民はようやく枕を高くして眠ることができるようになりました。六郷井路は、大正11年（1922）からの寝屋川改修工事によって寝屋川との中仕切りの堤防が撤去され、寝屋川と一つの河川となり消滅しました。大橋房太郎は、大正6年（1917）の大正大洪水後の大正8年（1919）に、自らが中心となって淀川左岸水害予防組合を創設し、地域の水害対策に尽力しました。

⑧ 中高野街道顕彰碑

剣街道は、京都や大阪から高野山参詣の人たちが多く通ったため、中高野街道とも呼ばれました。この付近には付け替え前の大和川が流れており、「放手の渡し」がありました。街道を通る人たちは、川を越えるためにこの渡しを利用しました。現在も旧街道の風情を残す町並みの中に顕彰碑は建てられています。

⑨ 阿遅速雄神社

平安時代に記された『延喜式』に掲載された式内社の一つです。天智7年（668）に新羅の僧・道行が熱田神宮より草薙の剣を盗み出したものの、難波津にて大嵐に遭って今の放出付近に漂着しました。神の恐れを感じた道行は剣を放り出して逃げ出しました。これが地名・放出（はなてん）の由来にもなっています。剣は無事、阿遅速雄神社にて保管され、後に熱田神宮に戻されたと伝えられています。境内には、大阪市内で唯一残るお蔭燈籠、天然記念物の楠があり、江戸時代に、式内社であったことが証明された「阿遅速雄社」の社号標石が建っています。

【注意事項】この地図は「大阪あそ歩」のまち歩きの資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局　電話06-6282-5930（財団法人大阪観光コンベンション協会内）「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。　http://www.osaka-asobo.jp　または　大阪あそ歩　でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2～3km、2～3時間程度を基準として作成されています。